



方言研究の意義

伝統方言は死滅しつつある文化資源である。

北京語言大学『漢語方言地図集』

→金沢大学“日中無形文化遺産”連携融合
事業とのコラボレーション

- 特徴
1. 中国初の項目別全国地図集
 2. 調査規模においてフランス (ALF)、ドイツ (Wenker Atlas)、日本 (LAJ) 等に匹敵する。

なぜ中国語方言のデータベースをつくるか？

中国の研究においては言語地理学的な観点
が欠如している。

* 言語地理学の目的

1. 方言地図から単語・言語特徴の歴史
を再構成する。cf. 『蝸牛考』『全国
アホバカ分布地図』
2. 言語変化の普遍性を解明する。
譬えて言えば「がらくた遺伝子」の研究

Project on Han Dialects (PHD)

- 1989～2006
- 共同研究(科研総合A3回, 基盤B2回)
 - 中国全土の方言調査記録に基づく
 - 方言データの集積とデータベース
 - 方言(解釈)地図の作成
 - 全国の研究者と連携

PHDシステムの開発

- 2004-2006年科研基盤(B)による
“新PHDプロジェクト”
- PHDシステム製作者：林智
- 金沢大学にサーバ・システムを設置

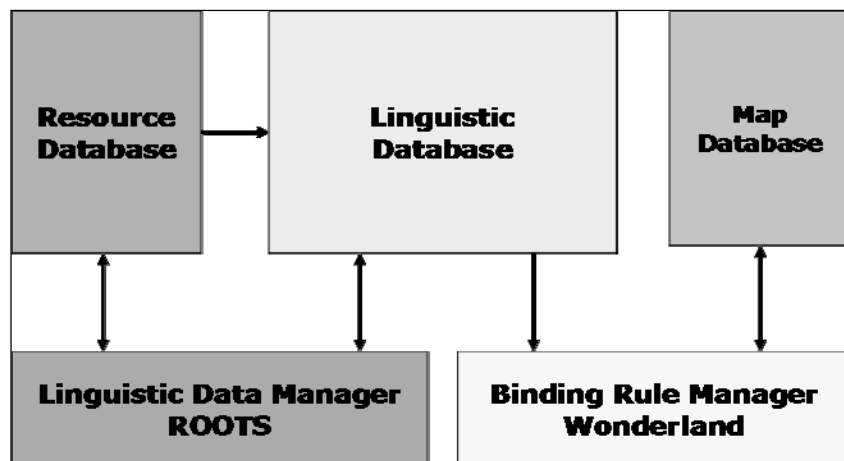
システムの目的

- 言語データベースをWEBを通して共有する
事
 - 基礎的なデータの共有
 - 資料データ (6000件以上の書誌)
 - 地点データ (約3000の県)
 - 方言データの共有
 - 約300項目(大多数は語彙)について各々およそ
1000地点調査
 - 方言(解釈)地図の共有
 - 地図集編纂のため

システムの構成

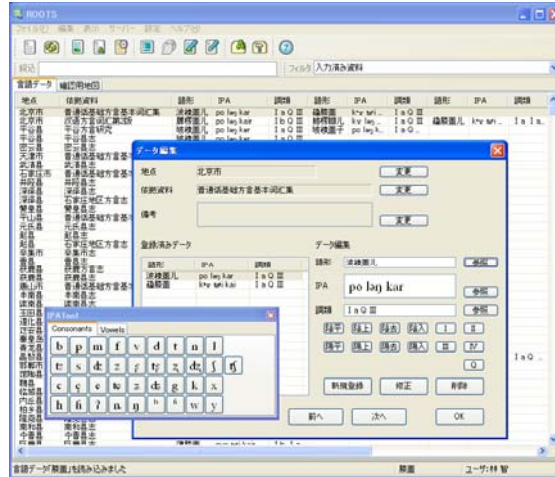
- サーバ側
 - Linuxサーバ
 - WEBサーバ(Apache+PHP)
 - アプリケーションサーバ(Tomcat)
 - データベース(MySQL等)
- クライアント側
 - 言語データ編集ソフト(ROOTS)
 - 地図編集ソフト(Wonderland)
- XMLでサーバ・クライアント間のデータ授受

参照関係



言語データ

- 各項目について語形、音声、声調などを地点ごとに入力
- 専用クライアント(ROOTS)を用いて全国各地で入力作業



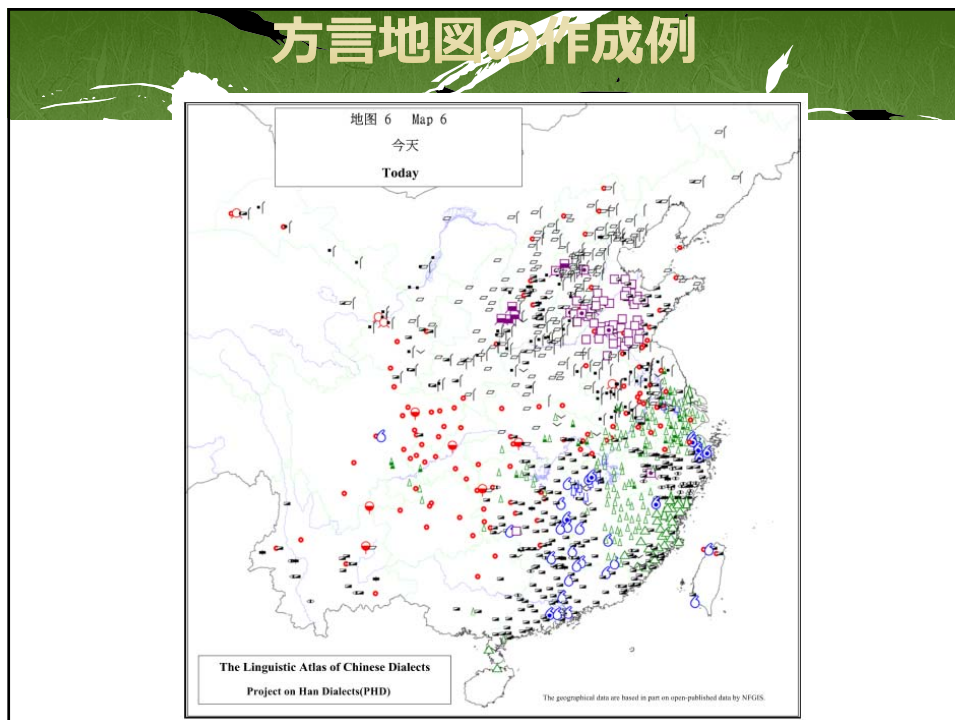
方言データのXML表現

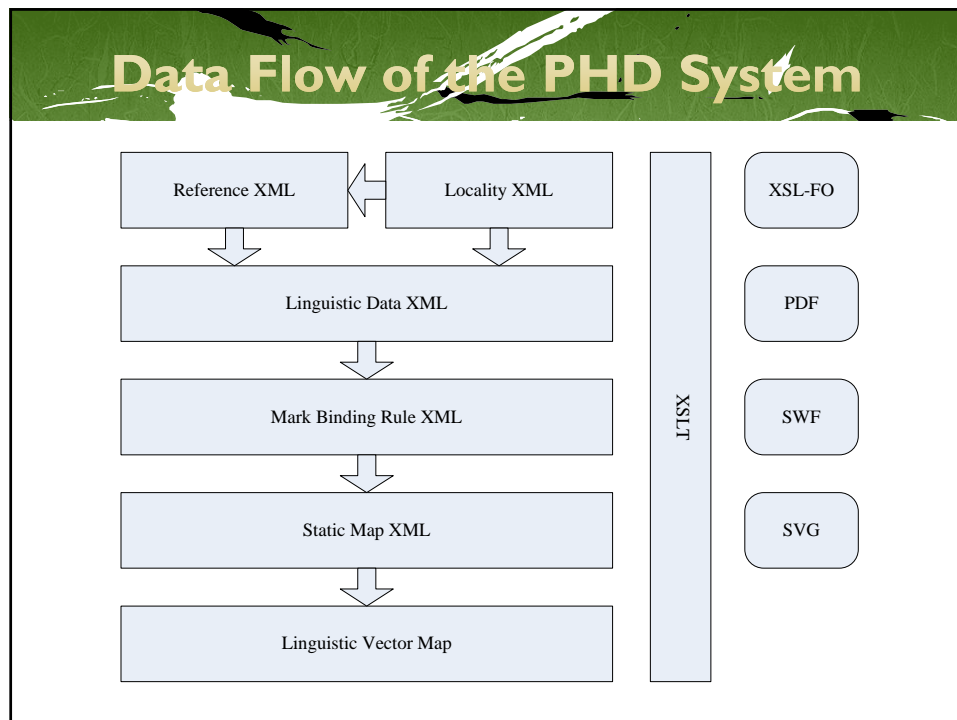
- `<Record>`
 - `<Reference>002320</Reference>`
 - `<Locality>X0010700</Locality>`
 - `<Modifier>Yantian</Modifier>`
 - `<DataSet>`
 - `<Artic>IV II III</Artic>`
 - `<IPA>kʰ tiŋ kər</IPA>`
 - `<Hanzi>圪顶盖儿</Hanzi>`
 - `</DataSet>`
 - `<DataSet>`
 - `<Artic>IV Q III</Artic>`
 - `<IPA>kʰ liŋ kər</IPA>`
 - `<Hanzi>圪灵盖儿</Hanzi>`
 - `</DataSet>`
 - `</Record>`
- 各Record要素にメタ情報と、複数のDataSet要素がふくまれる。
 - DataSet要素には、Hanzi/IPA/Artic要素が含まれる。

方言地図の作成

- WEB上の方言データベースから作成
 複数項目の言語データを同時に読み込める所が画期的
- 読み込んだ方言データをルールに基づきグループ化 → 言語学的な洞察力とArtistic senseが必要
 - 文字列一致 (正規表現)
 - 論理演算 (AND/OR/NOT)
 - グループにマーク(地図上に表示される記号)の割り当て
- これにより様々な方言地図を作成。それらに言語学的な解釈を加える。

方言地図の作成例





新PHD以降の主な成果(2004-)

- 方言データの入力
 - 313項目について約100人の入力者(多くは研究協力者)で入力
- 方言(解釈)地図の作成
 - 514件の方言地図の作成
- 地図集の発行
 - 科研報告書地図集 2006年3月, 2007年3月
 - 『漢語方言解釈地図集』 2009年12月(予定)
 地図+解説(中国語及び英語で執筆)
 科研費出版助成を申請中